

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> モラル学	田中基隆	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	学生として身に付けるべきモラルについて、社会の現状や課題を踏まえながら専門家による特別講義やグループディスカッションを取り入れ、社会人あるいは医療人としての倫理観や責任感を醸成する。				
到達目標	1.学生としての規範意識の高揚を図る。 2.医療に携わる者としての倫理観や責任感を身につける。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション				
2 回	特別講義：社会人基礎力・自己理解・キャリアビジョンについて①				
3 回	特別講義：社会人基礎力・自己理解・キャリアビジョンについて②				
4 回	特別講義：ビジネスマナー講座				
5 回	特別講義：インターネットモラルについて				
6 回	特別講義：交通安全モラルについて				
7 回	特別講義：危険薬物について				
8 回	まとめ				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	疑問に感じたことがあればいつでも質問すること。 授業内容に関連する事項などを図書館やインターネットで調べてみること。				
成績評価方法	レポートの提出を以って単位認定する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<基礎分野> 情報処理	今野清	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	理学療法業務で必要とされるパソコン理論、ワード・エクセル・パワーポイントの活用方法について学ぶ。				
到達目標	1. 情報処理の基礎を身につけ、実際に活用できる。 2. Word、Excel、PowerPoint を活用して簡単なプレゼンテーションができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	情報倫理の社会との関わり 医療業務における情報管理				
2 回	知的財産権 ウイルスとその防止法 本校コンピュータの起動と停止法				
3 回	Windows の基本操作 デスクトップ、エクスプローラの操作、タスクバーによる動作設定 USB メモリーの活用 キー入力実習 スキャナーの基本操作 Photoshop の使い方				
4 回	Word の基本 ワードプロとしての操作 文書作成時の約束事キー操作、ツールでのキー入力実習 数式エディタの活用 印刷処理実習				
5 回	Word 日本語辞書の活用 キー操作ツールでのキー入力 実習図形作成の基礎 図形ソフトの活用				
6 回	Word オートシェイプ機能実習 公文書作成の基礎実習				
7 回	Word 画像イメージの取り込みと編集				
8 回	表計算ソフト Excel の機能と歴史 Excel によるデータ処理の基礎				
9 回	Excel 罫線処理 自動計算機能の操作 縦横データの集計				
10 回	Excel データのソーティング処理と成績処理				
11 回	Word と Excel 間のデータ交換、Excel でのグラフ表示の基礎				
12 回	Excel の関数活用その 1 (SUM MAX MIN AVERAGE RANK 等)				
13 回	Excel の関数活用その 2 (IF 関数 COUNT 関数)				
14 回	プレゼンテーションの基本概念 パワーポイントの基礎操作				
15 回	課題によるプレゼンテーションの制作				
16 回	情報倫理と医療業務 情報機器の活用 著作権の理解 医療現場と情報処理				
17 回	公文書の応用作成 論文形式文書の作成 文書形態の種類と理解				
18 回	MS ペイントの操作と図形ファイル作成 スキャナー応用活用				
19 回	スキャナーの応用活用 Photoshop Elements の応用操作 取り込みデータの修正と保存				
20 回	スキャナーの応用活用によるデータの複合（画像と文字列、グラフ） 画像取り込み文書の作成				
21 回	Word による地図作成とオフィスの配置設計				
22 回	Word 文書と Excel 連係による各種ファイルの作成				
23 回	イメージファイルの作成と差込み印刷オートシェイプの応用（流れ図、ブロック図作成）				
24 回	差込み印刷による葉書 宛名ラベルへの印刷 年賀状葉書の作成				
25 回	表計算ソフト Excel の応用 住所録データ検索技法（オートフィルタの操作）				
26 回	成績表作成 1（順位付け、並べ替え、COUNTIF） グラフ機能と他文書への貼り付け				
27 回	成績表作成 2（データ検索、段階付け、欠席処理、重み付け処理）				
28 回	関数処理の応用（VLOOKUP コマンドの実践）ピボット処理アンケート処理				
29 回	パワーポイントの応用 パワーポイントのイメージツールの活用 アニメーションの設定				
30 回	プレゼンテーション作成 スライドショー ホームページの制作				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	疑問に思った点について、質問する習慣をつけること。 必ず授業で学んだ内容を復習すること。				
成績評価方法	実技試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 国語表現法	藤田洋治	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	レポートや論文等を作成するための基本的な日本語に関する文法や、文章作成の工夫、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方等を学ぶ。また日常生活における手紙などを題材として、実際に文章を作成しながら正しい日本語について学ぶ。				
到達目標	1.適切な日本語での表現ができる。 2.レポートや論文が作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	言葉の働きについて考える				
2 回	文脈にふさわしい語句を使う (1)				
3 回	文脈にふさわしい語句を使う (2)				
4 回	手紙の知識と応用				
5 回	正確に伝えるために (1)				
6 回	正確に伝えるために (2)				
7 回	文章の構成を考える (1)				
8 回	文章の構成を考える (2)				
9 回	文章の構成を考える (3)				
10 回	説得力のある文章を書く (1)				
11 回	説得力のある文章を書く (2)				
12 回	自分の意見を書く (1)				
13 回	自分の意見を書く (2)				
14 回	レポート・論文を書く際の心得 (1)				
15 回	レポート・論文を書く際の心得 (2)				
教科書及び参考書	日本語表現&コミュニケーション―社会を生きるための 21 のワークー、 実教出版				
時間外学修及び留意事項	授業で学んだ内容をその都度復習すること。				
成績評価方法	毎回の提出物 (80%)、最終の小論文 (20%) で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<基礎分野> 体育実技	鬼海博行	理学療法学科1年	実技	単位・時間	2・90
				実務家教員	
授業概要	様々な運動やスポーツの実践を通し、健康に関する知識や理解を深め、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を学ぶ。				
到達目標	1. 健康や運動についての理解と実践を通し運動に親しむことができる。 2. 集団活動を通し、お互いを尊重し、協調・協力し合うことに配慮できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1回 ～ 45回	バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などを選択制で行う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	身体活動が行えるジャージ等を準備する。 屋内で活動するときは、体育館シューズを準備する。				
成績評価方法	実技等を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 総合英語 I	豊嶋美由紀	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	高校までの学習をもとに、やさしい英文から初めて長めの英文も段階的に学習する。各ユニット終了後小テストを行う。総合的な視野を広めるための知識を英語を通して身に付ける。				
到達目標	1. 高校までに学習した文法事項をもう一度おさらいして、簡単な英文の読み書きができる。 2. 簡単な英文を無理なく読める力を養う。短めの英文と少し長めの英文を二段階で読むことで、理解を深める。 3. 来年の医学英語を学習するための英語の基礎知識を習得する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション、自己紹介				
2 回	Unit 1 The Cherry Blossom Season in Japan				
3 回	現在時制				
4 回	Unit 2 Travel Pleasures				
5 回	代名詞				
6 回	Unit 3 Lucky Discoveries				
7 回	過去時制				
8 回	Unit 4 Saving Our Precious Water				
9 回	名詞				
10 回	Unit 5 Festival Fun and Games				
11 回	前置詞				
12 回	Unit 6 Work Pre- and Post COVID-19				
13 回	進行形				
14 回	Unit 7 Online Social Gaming 不定詞と動名詞				
15 回	試験とまとめ、解説				
教科書及び参考書	Reading Leader 基礎文法から始める初級リーディング 金星堂				
時間外学修及び留意事項	予習復習を欠かさないこと。テキストに答えは書き込まず、ノートに書くようにすること。ユニットごとに小テストがあるので予習はもちろん復習を欠かさないこと。個人的に質問がある場合は授業終了時に直接聞くこと。 辞書は必携。紙辞書、電子辞書、高校までに使っていたものを使用してよい。参考書は高校で使用するものがあればそれを使ってよい。手持ちがなく、新しく購入したい人には紹介する。 ※総合英語 FACTBOOK これからの英文法 (NEW EDITION) 桐原書店 授業時にお見せしますので、欲しい人は各自注文してください。				
成績評価方法	小テスト（授業態度、参加度を含む）（10%）、期末試験（90%）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<基礎分野> 総合英語Ⅱ	豊嶋美由紀	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	前期に続き、高校までの学習をもとに総合的な学習を目指す。英語を通して世界で話題になっている項目にも目を通す。各ユニット終了後小テストを行う。				
到達目標	1. 高校までに学習した文法事項をもう一度おさらいして、簡単な英文の読み書きができる。 2. 簡単な英文を無理なく読める力を養う。短めの英文と少し長めの英文を二段階で読むことで、理解を深める。 3. 来年の医学英語を学習するための英語の基礎知識を身に付ける。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	Unit 8 Women's Social Advancement				
2 回	現在完了形				
3 回	Unit 9 Music Makers				
4 回	WH 疑問文				
5 回	Unit 10 Risks and Rewards of Online Tasks				
6 回	比較級と最上級				
7 回	Unit 11 Getting Around the Future				
8 回	未来時制				
9 回	Unit 12 Virtual Reality is Really Here				
10 回	助動詞				
11 回	Unit 13 Pet Adoption				
12 回	接続詞				
13 回	Unit 14 Mobile Supermarkets to the Rescue				
14 回	受動態				
15 回	試験とまとめ、解説				
教科書及び参考書	Reading Leader 基礎文法から始める初級リーディング				
時間外学修及び留意事項	予習復習を欠かさないこと。テキストに答えは書き込まず、ノートに書くようにすること。ユニットごとに小テストがあるので予習はもちろん復習を欠かさないこと。個人的に質問がある場合は授業終了時に直接聞くこと。 辞書は必携。紙辞書、電子辞書、高校までに使っていたものを使用してよい。参考書は高校で使用のものがあればそれを使ってよい。手持ちがなく、新しく購入したい人には紹介します。				
成績評価方法	小テスト（授業態度、参加度を含む）（10%）、期末試験（90%）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 医学英語	豊嶋美由紀	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションに関連する医療系英文の読解力向上を目指す。				
到達目標	1. リハビリテーションに関連する医学用語や略語が説明できる。 2. リハビリテーションに関連する英文を読み内容が把握できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション（英論文を読むことの必要性）				
2 回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）				
3 回	Parkinson's Disease（パーキンソン病）				
4 回	Osteoporosis（骨粗鬆症）				
5 回	Cerebral Apoplexy（脳卒中）				
6 回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）				
7 回	Diabetes Mellitus（糖尿病）				
8 回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）				
9 回	Chronic Rheumatoid Arthritis（慢性関節リウマチ）				
10 回	Femoral Neck Fractures（大腿骨頸部骨折）				
11 回	Spinal Cord Injuries（脊髄損傷）				
12 回	Cerebral Palsy（脳性麻痺）				
13 回	英文抄読（最新論文）				
14 回	英文抄読（最新論文）				
15 回	英文抄読（最新論文）				
教科書及び参考書	The Art of Healing、南雲堂 英和辞書				
時間外学修及び留意事項	各授業の最後に次の回までに予習すべき内容を伝えるので、授業で学んだ内容を復習したうえでテキストを読んでくること。 毎週、巻末の症状集の小テストを行う。前の週に予告するので覚えてくること。 基本的に各章ごとに学習するが、内容によっては学習する章の順番が変わることがある。その場合あらかじめ指示を出すので、それに従ってください。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 人間関係論	阿部晃士 大村一史 栗林明	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
	実務家教員				
授業概要	患者、利用者等との良好な人間関係の構築を目的として、人の心理について発達、性格、知能などの要素の基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。また、社会の基本的な考え方を理解し、現代社会の特質と社会との関わりについて学ぶ。				
到達目標	1. 対象者の心理を理解し、それぞれの問題や障害に対する対処法を考え、実践することができる。 2. 現代社会の特質を踏まえ、社会と個人との関わりについて説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	イントロダクション 良好な人間関係とは				
2 回	心理学と心の進化				
3 回	心の発達とライフサイクル				
4 回	動機づけと情動				
5 回	性格と知能				
6 回	ストレスとメンタルヘルス				
7 回	カウンセリングと心理療法				
8 回	社会のなかの人				
9 回	社会における社会と個人				
10 回	働く (1) 「働くこと」の社会的な位置づけ				
11 回	働く (2) 「社会」のなかで働くこと				
12 回	家族 (1) 近代化は家族をどう変えてきたのか				
13 回	家族 (2) 家族であるとはどのようなことか				
14 回	病い・老い (1) 統計学は医療とどうかかわってきたか				
15 回	病い・老い (2) 病むこと・老いることは、どのような経験か				
教科書及び参考書	資料配布 はじめて出会う心理学 改訂版、 有斐閣アルマ				
時間外学修及び留意事項	事前配布の資料をよく読んでおくこと。 授業で使用した資料をよく読み返し理解しておくこと。 授業内容に関連する事項などを図書館やインターネットで調べてみること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 基礎解剖生理学	杉原敏道	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	3・90
	栗林明			実務家教員	
授業概要	人体の構造や各器官の機能について学修する。				
到達目標	1. 人体および各器官の形態的特徴が説明できる。 2. 人体のもつ、働き（機能）が説明できる。 3. 人体構造（解剖学）と人体機能（生理学）のつながりが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類①		26 回	視覚器の構造と機能②	
2 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類②		27 回	視覚器の構造と機能③	
3 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類③		28 回	平衡聴覚器の構造と機能①	
4 回	骨の構造と機能①		29 回	平衡聴覚器の構造と機能②	
5 回	骨の構造と機能②		30 回	平衡聴覚器の構造と機能③	
6 回	骨の構造と機能③		31 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能①	
7 回	関節、靱帯の構造と機能①		32 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能②	
8 回	関節、靱帯の構造と機能②		33 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能③	
9 回	関節、靱帯の構造と機能③		34 回	血液・循環器の構造と機能①	
10 回	筋の構造と機能①		35 回	血液・循環器の構造と機能②	
11 回	筋の構造と機能②		36 回	血液・循環器の構造と機能③	
12 回	筋の構造と機能③		37 回	呼吸器の構造と機能①	
13 回	神経の構造と機能①		38 回	呼吸器の構造と機能②	
14 回	神経の構造と機能②		39 回	呼吸器の構造と機能③	
15 回	神経の構造と機能③		40 回	消化器の構造と機能①	
16 回	中枢神経の構造と機能①		41 回	消化器の構造と機能②	
17 回	中枢神経の構造と機能②		42 回	消化器の構造と機能③	
18 回	中枢神経の構造と機能③		43 回	泌尿器・生殖器・内分泌系の構造と機能①	
19 回	末梢神経の構造と機能①		44 回	泌尿器・生殖器・内分泌系の構造と機能②	
20 回	末梢神経の構造と機能②		45 回	泌尿器・生殖器・内分泌系の構造と機能③	
21 回	末梢神経の構造と機能③				
22 回	感覚のしくみ①				
23 回	感覚のしくみ②				
24 回	感覚のしくみ③				
25 回	視覚器の構造と機能①				
教科書及び参考書	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、西村書店 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学、医学書院 基礎運動学、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 運動機能解剖学	長沼誠	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	骨・関節・筋などの運動器の構造や機能について学修する。				
到達目標	1. 関節の種類とその構成要素が説明できる。 2. 筋の名称及び構造と機能が説明できる。 3. 四肢・体幹の関節運動のメカニズムが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	筋骨格系の機能①				
2 回	筋骨格系の機能②				
3 回	筋骨格系の機能③				
4 回	上肢の関節の構造と機能【各部関節名 形態的特徴】				
5 回	上肢の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】①				
6 回	上肢の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】②				
7 回	上肢の関節運動のメカニズム				
8 回	下肢の関節の構造と機能【各部関節名 形態的特徴】				
9 回	下肢の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】①				
10 回	下肢の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】②				
11 回	下肢の関節運動のメカニズム				
12 回	体幹の関節の構造と機能【各部関節名 形態的特徴】				
13 回	体幹の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】①				
14 回	体幹の筋の構造と機能【固有名称 起始停止 作用】②				
15 回	体幹の関節運動のメカニズム				
教科書及び参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系、 医学書院 カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、西村書店 基礎運動学、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 神経解剖生理学	長沼誠	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	神経系の構造・機能について詳しく学修する。				
到達目標	1. 神経の基本構造と区分および興奮の伝達・伝導が説明できる。 2. 中枢神経系を構成する脳や脊髄の各部位の構造と機能が説明できる。 3. 感覚に関する神経系の構造と機能が説明できる。 4. 運動に関する神経系の構造と機能が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	ニューロンの構造と機能				
2 回	興奮の伝達				
3 回	末梢神経の区分				
4 回	体性神経系：脳神経、脊髄神経				
5 回	自律神経系：交感神経、副交感神経				
6 回	中枢神経系の区分				
7 回	大脳の構造と機能：大脳皮質				
8 回	大脳の構造と機能：大脳基底核				
9 回	間脳の構造と機能				
10 回	中脳・橋・延髄の構造と機能				
11 回	小脳の構造と機能				
12 回	脊髄の構造と機能				
13 回	感覚：体性感覚、内臓感覚、特殊感覚				
14 回	運動および緊張：錐体路、錐体外路				
15 回	学習と記憶、覚醒と睡眠				
教科書及び参考書	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、西村書店				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 内臓解剖生理学	松澤克典	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系の解剖学的構造および生理学的作用について学ぶ。				
到達目標	1. 循環器系の構造と機能が説明できる。 2. 呼吸器系の構造と機能が説明できる。 3. 消化器系の構造と機能が説明できる。 4. 泌尿器系の構造と機能が説明できる。 5. 内分泌系の構造と機能が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	総論（人体の構成）				
2 回	循環器系（血管 1）				
3 回	循環器系（血管 2）				
4 回	循環器系（心臓）				
5 回	呼吸器系				
6 回	消化器系（1）				
7 回	消化器系（2）				
8 回	消化器系（3）				
9 回	栄養と代謝				
10 回	腎臓・尿路系				
11 回	内分泌系（1）				
12 回	内分泌系（2）				
13 回	内分泌系（3）				
14 回	体液・血液系				
15 回	まとめ				
教科書及び参考書		読んでわかる解剖生理学、医学教育出版社			
時間外学修及び留意事項		分からなかったこと、疑問に思った点について質問する習慣をつけて下さい。 授業内容を復習して要点を確認すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 体表解剖学実習	佐藤和輝	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
	栗林明			実務家教員	
授業概要	骨、靱帯、筋、腱、神経、血管などの触診の具体的な方法について、実技を行いながら学修する。				
到達目標	1. 体表から触診できる骨、靱帯、筋、神経、血管について、位置関係が説明できる。 2. 骨、靱帯、筋、神経、血管の触診が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	各組織の触診方法				
2 回	骨の触診（上肢）				
3 回	骨の触診（下肢）				
4 回	骨の触診（脊柱・骨盤）				
5 回	靱帯・神経・血管の触診（上肢・下肢）				
6 回	靱帯・神経・血管の触診（体幹・骨盤）				
7 回	軟部組織の触診（脊柱・骨盤）				
8 回	筋の触診（上肢）①				
9 回	筋の触診（上肢）②				
10 回	筋の触診（上肢）③				
11 回	筋の触診（上肢）④				
12 回	筋の触診（上肢）⑤				
13 回	筋の触診（上肢）⑥				
14 回	筋の触診（下肢）①				
15 回	筋の触診（下肢）②				
16 回	筋の触診（下肢）③				
17 回	筋の触診（下肢）④				
18 回	筋の触診（下肢）⑤				
19 回	筋の触診（下肢）⑥				
20 回	筋の触診（脊柱）①				
21 回	筋の触診（脊柱）②				
22 回	筋の触診（骨盤）①				
23 回	筋の触診（骨盤）②				
教科書及び参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系、 医学書院 運動療法のための機能解剖学的触診技術、メジカルビュー社				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。実技のできる服装を用意すること。				
成績評価方法	実技試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 解剖学見学実習	栗林明	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	
授業概要	人体の基本構造を理解するために、実際に骨・筋の形態や配置、血管・末梢神経の走行、脳・脊髄の構造、内臓の位置関係などについて観察し、スケッチを行いながら三次元的に理解する。 生命の尊厳を重んじ、医療従事者としての自覚を養う。				
到達目標	1. 生命の尊厳について自覚し、真摯に参加できる。 2. 主な骨や筋の形態や配置が説明できる。 3. 主な血管、末梢神経の走行が説明できる。 4. 脳・脊髄の外形や構造が説明できる。 5. 内臓諸器官の形態や位置関係が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	山形大学医学部の協力の下、5 日間にわたり実施する。 詳細は解剖学見学実習実施要項に従う。				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院 カラー人体解剖学、西村書店 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系、 医学書院 解剖学アトラス、文光堂 分担 解剖学、金原出版 カラーアトラス人体、医学書院 解剖学カラーアトラス、医学書院 人体解剖カラーアトラス、南江堂 アトラスとテキスト 人体の解剖、南江堂 骨格筋の形と触察法、大峰閣				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（基礎解剖生理学、運動機能解剖学、神経解剖生理学、内臓解剖生理学、体表解剖学、運動学）の内容を復習すること。 献体や標本には敬意をもって取り組むこと。				
成績評価方法	課題（スケッチ）提出にて単位を認定する。 課題に各部位の名称を記入すること。 実習態度が不良な学生は、単位を認定しない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 生理学実習	佐藤和輝	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
	栗林明			実務家教員	
授業概要	履修したヒトの生理機能に関する知識をもとに、ヒトの生理機能についての実習を行い、理解を深める。				
到達目標	1. 生理機能の意義や原理、それぞれの検査方法を説明でき、検査が実施できる。 2. 実習で得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。 3. 実験結果をまとめ、プレゼンテーションできる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	生理学実習の手引き、中枢神経、呼吸循環の機能について説明				
2 回	実習機器、実験手順の説明				
3 回	実習①のオリエンテーション（呼吸機能）				
4 回	実習①				
5 回	実習①の発表および解説				
6 回	実習②のオリエンテーション（循環応答）				
7 回	実習②				
8 回	実習②の発表および解説				
9 回	実習③のオリエンテーション（筋電図）				
10 回	実習③				
11 回	実習③の発表および解説				
12 回	実習④のオリエンテーション（筋力測定）				
13 回	実習④				
14 回	実習④の発表および解説				
15 回	実習⑤のオリエンテーション（感覚）				
16 回	実習⑤				
17 回	実習⑤の発表および解説				
18 回	実習⑥のオリエンテーション（バランス）				
19 回	実習⑥				
20 回	実習⑥の発表および解説				
21 回	呼吸・循環の生理学				
22 回	筋の生理学				
23 回	感覚・バランスの生理学				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	実習ならびに発表はグループで実施する。 各実習終了後には、個人で実習レポートを作成し提出すること。				
成績評価方法	筆記試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 発表が不適切な場合は、成績から減点する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 運動学Ⅰ	栗林明	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	人間の身体的運動に関する基本的な知識について学修する。				
到達目標	1. 生体力学の基礎が説明できる。 2. 重心と支持基底面が説明できる。 3. 姿勢と関節の位置関係が説明できる。 4. 動作と関節運動の関係が説明できる。 5. 歩行と走行が説明できる。 6. 年齢と発達課題が説明できる。 7. 運動学習が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	生体力学の基礎①（運動学的分析）				
2 回	生体力学の基礎②（モーメント）				
3 回	生体力学の基礎③（身体とてこ）				
4 回	重心と支持基底面①				
5 回	重心と支持基底面②				
6 回	姿勢保持と関節①				
7 回	姿勢保持と関節②				
8 回	関節と関節運動（上肢）				
9 回	筋の機能と関節運動（上肢）				
10 回	関節と関節運動（下肢）				
11 回	筋の機能と関節運動（下肢）				
12 回	関節と関節運動（体幹）				
13 回	筋の機能と関節運動（体幹）				
14 回	動作と関節運動①				
15 回	動作と関節運動②				
16 回	歩行と走行①（歩行周期）				
17 回	歩行と走行②（運動力学的分析）				
18 回	歩行と走行③（異常歩行）				
19 回	歩行と走行④（走行の運動学的分析）				
20 回	運動と呼吸・循環について①				
21 回	運動と呼吸・循環について②				
22 回	基礎代謝・エネルギー代謝について				
23 回	正常発達と反射活動について①				
24 回	正常発達と反射活動について②				
25 回	正常発達に必要な要素について①				
26 回	正常発達に必要な要素について②				
27 回	年齢と発達課題について①				
28 回	年齢と発達課題について②				
29 回	運動学習について①				
30 回	運動学習について②				
教科書及び参考書	基礎運動学、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験により評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 運動学Ⅱ	杉原敏道	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
	栗林明			実務家教員	
授業概要	各姿勢や基本動作などの動作分析について、運動学的な考え方をもとに学修する。				
到達目標	1. 正常姿勢・動作に必要な要素を説明できる。 2. 姿勢や基本動作の動作分析が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	動作分析を学ぶ意義				
2 回	基本動作における動作分析（背臥位）①				
3 回	基本動作における動作分析（背臥位）②				
4 回	基本動作における動作分析（寝返り）①				
5 回	基本動作における動作分析（寝返り）②				
6 回	基本動作における動作分析（起き上がり）①				
7 回	基本動作における動作分析（起き上がり）②				
8 回	基本動作における動作分析（座位）①				
9 回	基本動作における動作分析（座位）②				
10 回	基本動作における動作分析（起立）①				
11 回	基本動作における動作分析（起立）②				
12 回	基本動作における動作分析（立位）①				
13 回	基本動作における動作分析（立位）②				
14 回	基本動作における動作分析（歩行）①				
15 回	基本動作における動作分析（歩行）②				
16 回	基本動作における動作分析（歩行）③				
17 回	基本動作における動作分析（歩行）④				
18 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）①				
19 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）②				
20 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）③				
21 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）④				
22 回	運動発達の分析①				
23 回	運動発達の分析②				
教科書及び参考書	基礎運動学、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。 実技のできる服装を用意すること。 姿勢・動作の分析結果をレポートとして提出すること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 人間発達学	佐藤秀則	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションの評価・治療に必要な、人間が生まれてからの各ライフステージにおける人間発達の概要や発達課題について学修する。				
到達目標	1. 人間発達の諸段階における身体的発達の概要が説明できる。 2. 人間発達の諸段階における発達課題が説明できる。 3. 上記の知識をリハビリテーションの評価・治療に応用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	人間発達学総論				
2 回	身体発達（1）				
3 回	身体発達（2）				
4 回	運動機能の発達（1）				
5 回	運動機能の発達（2）				
6 回	乳児期（1）				
7 回	乳児期（2）				
8 回	幼児期（1）				
9 回	幼児期（2）				
10 回	児童期				
11 回	青年期				
12 回	成人期				
13 回	老年期				
14 回	発達検査（1）				
15 回	発達検査（2）				
教科書及び参考書		リハビリテーションのための人間発達学、メディカルプレス			
時間外学修及び留意事項		履修した内容について、その都度復習し理解を深めること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 病理学	長沼誠	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	種々の疾病における原因、発症の機序、病気の進展過程、臨床像との関連、転帰、治療などについて、解剖学や細胞組織学の基盤の上に、主に器官・組織・細胞の形態学的変化として総論的に学修する。				
到達目標	1．医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方が説明できる。 2．病的状態における細胞、組織、器官（臓器）の変化が説明できる。 3．各種疾病について、その原因と、発症、進展の要因、メカニズムが説明できる。 4．疾患個別の病的状態を正確に把握し、最善の医療行為に資することができるように考察できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	病理学の概要、病因論				
2 回	退行性病変・進行性病変				
3 回	代謝障害(1)				
4 回	代謝障害(2)				
5 回	循環障害(1)				
6 回	循環障害(2)				
7 回	免疫(1)				
8 回	免疫(2)				
9 回	炎症・感染症(1)				
10 回	炎症・感染症(2)				
11 回	腫瘍(1)				
12 回	腫瘍(2)				
13 回	腫瘍(3)				
14 回	老化				
15 回	先天異常・奇形				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		授業で配られたプリントやノートを見ながら、しっかり理解できたかどうか復習すること。 疑問点は積極的に質問して解決しておくよう心がける。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 臨床心理学	鈴木竜平	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	本講義では臨床心理学の様々な理論や技法の学修を通じ、患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴などの具体的な技法を学ぶ。				
到達目標	1. 臨床心理学の基礎的な理論や技法が説明できる。 2. 患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴などの具体的な技法が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	臨床心理学概論				
2 回	心理アセスメント（質問法）				
3 回	心理アセスメント（投影法）				
4 回	精神疾患Ⅰ（身体表現性・解離性）				
5 回	精神疾患Ⅱ（統合失調症・気分障害・不安障害）				
6 回	精神疾患Ⅲ（不適応・摂食障害・依存症・その他）				
7 回	障害者の心理（1）				
8 回	障害者の心理（2）				
9 回	心理療法Ⅰ（来談者中心療法）				
10 回	心理療法Ⅱ（支持療法）				
11 回	心理療法Ⅲ（精神療法・認知行動療法）				
12 回	心理療法Ⅳ（交流分析）				
13 回	心理療法Ⅴ（自律訓練法）				
14 回	心理療法Ⅵ（絵画療法）				
15 回	心理療法Ⅶ（その他の療法）				
教科書及び参考書	標準理学療法学作業療法学 臨床心理学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	授業終了後には、配布したプリントやノートを見ながら、理解を深めること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
＜専門基礎分野＞ 整形外科学	井上勇人	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	骨、関節、筋腱、靱帯、神経血管系疾患の病態生理、診断、治療法、予後などについて学ぶ。				
到達目標	1. 整形外科で扱う運動器の疾病や外傷などの病態、治療が説明できる。 2. 運動器の機能障害が日常生活活動に及ぼす影響を理解し、理学療法へ関連付けることができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	骨の構造、生理、発生、成長				
2 回	骨の病態、修復。関節の構造、生理				
3 回	関節の病態。関節軟骨。筋・神経。痛みの基礎				
4 回	診察、主訴、現症の取り方				
5 回	検査				
6 回	治療総論				
7 回	感染症				
8 回	関節リウマチ				
9 回	慢性関節疾患。循環障害				
10 回	骨系統疾患、先天異常				
11 回	代謝性骨疾患。骨腫瘍①				
12 回	骨腫瘍② 軟部腫瘍				
13 回	神経筋疾患、ロコモ				
14 回	肩関節				
15 回	肘関節、手関節と手①				
16 回	手関節と手②				
17 回	頸椎				
18 回	胸郭、胸椎、腰椎①				
19 回	胸椎、腰椎②				
20 回	股関節①				
21 回	股関節② 膝関節①				
22 回	膝関節②				
23 回	足関節と足				
24 回	外傷総論 軟部組織損傷				
25 回	骨折・脱臼Ⅰ				
26 回	骨折・脱臼Ⅱ				
27 回	脊椎・脊髄損傷				
28 回	末梢神経損傷				
29 回	スポーツと整形外科				
30 回	リハビリテーション				
教科書及び参考書	標準整形外科学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	必ず復習をして、知識を整理しておくこと。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 内科学	石井邦明 一瀬白帝 高橋邦之	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
	実務家教員				
授業概要	内科疾患の病因や病態、治療や予後ならびに理学療法に深く関わる疾患について学ぶ。				
到達目標	1. 代表的な内科系疾患の疫学、病態、診断、予後、治療法などが説明できる。 2. 上記の知識をリハビリテーションの評価・治療に応用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	循環器疾患の位置づけ：日本人の死因、危険因子、メタボリック・シンドローム				
2 回	血液循環の発見、循環器系の構造、重要な症状				
3 回	循環器系の構造と病態：(1) 心不全の代償機構、自律神経系、RAAS				
4 回	心不全の代償機構：(2) シグナルトランスダクションの機構、細胞内メッセンジャー				
5 回	心筋細胞収縮機能調節とその破綻 (1) 内因性調節機構外因性調節機構				
6 回	心筋細胞収縮機能調節とその破綻 (2) 調節機構の破綻と治療				
7 回	虚血性心疾患の病態と治療；不整脈の病態と治療				
8 回	高血圧症の病態と治療；過去の国家試験問題と解答の考え方				
9 回	内科学総論				
10 回	呼吸器疾患総論				
11 回	呼吸器疾患に対する検査、診断方法、治療				
12 回	膠原病総論				
13 回	膠原病に対する検査、診断、治療				
14 回	PT に深く関連する疾患 1				
15 回	PT に深く関連する疾患 2				
16 回	消化器疾患 1				
17 回	消化器疾患 2				
18 回	肝・胆・膵疾患 1				
19 回	肝・胆・膵疾患 2				
20 回	血液疾患 1				
21 回	血液疾患 2				
22 回	代謝疾患				
23 回	内分泌疾患 1				
24 回	内分泌疾患 2				
25 回	腎・泌尿器疾患 1				
26 回	腎・泌尿器疾患 2				
27 回	感染症				
28 回	PT に深く関連する疾患 (1) 糖尿病				
29 回	PT に深く関連する疾患 (2) 院内感染				
30 回	PT に深く関連する疾患 (3) 薬物療法				
教科書及び参考書	病気がみえる vol. 2 循環器疾患、メディックメディア 標準理学療法学作業療法学 内科学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	授業で配布した資料等を活用して毎回復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 神経内科学	杉原敏道	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	神経内科諸疾患の病因・病態について総合的に学ぶ。特にリハビリテーションの対象となることの多い疾患については、治療、予後等についても学ぶ。				
到達目標	1. 神経内科諸疾患の病因・病態が説明できる。 2. 神経内科諸疾患の病因・病態を踏まえ、理学療法士として適切な対応を考えることができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	総論				
2 回	脳血管障害（運動障害）				
3 回	脳血管障害（高次脳機能障害）				
4 回	脳血管障害（その他の合併症）				
5 回	脳血管障害（各種評価）				
6 回	パーキンソン病の病態				
7 回	パーキンソン病の治療・合併症				
8 回	パーキンソン病とパーキンソン症候群の鑑別				
9 回	失調症				
10 回	脊髄小脳変性症の病態①				
11 回	脊髄小脳変性症の病態②				
12 回	脳性麻痺の病態				
13 回	脳性麻痺のタイプ				
14 回	脳性麻痺のリハビリテーション①				
15 回	脳性麻痺のリハビリテーション②				
16 回	筋萎縮性側索硬化症				
17 回	筋ジストロフィー				
18 回	多発性硬化症				
19 回	ギランバレー症候群				
20 回	重症筋無力症				
21 回	多発性筋炎・皮膚筋炎				
22 回	進行性疾患のリハビリテーション				
23 回	ダウン症の病態				
24 回	ダウン症のリハビリテーション				
25 回	二分脊椎の病態				
26 回	二分脊椎のリハビリテーション				
27 回	水頭症の病態				
28 回	外傷性脳損傷の病態				
29 回	外傷性脳損傷のリハビリテーション				
30 回	その他の疾患				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	1 年次の解剖学、生理学等を確認して授業に臨むこと。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 精神医学	石澤正夫	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	精神医学の概要と、個々の精神障害の症状、診断、治療・対応について学び、理学療法士として必要な精神医学の基礎的知識について理解を深める。				
到達目標	1. 代表的な精神障害の症状、診断、治療法が説明できる。 2. 理学療法士として必要な精神障害の基本的知識が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	精神障害とは 精神障害の診断・検査・治療				
2 回	統合失調症 1				
3 回	統合失調症 2				
4 回	気分（感情）障害				
5 回	自殺とうつ病（特に高齢者のうつ病について） 軽症うつ病				
6 回	症状性精神障害・器質性精神障害				
7 回	認知症				
8 回	てんかん				
9 回	アルコール依存症 薬物依存と中毒性精神障害				
10 回	薬物依存と中毒性精神病 パーソナリティー障害				
11 回	神経症性障害・心因性精神病・心身症				
12 回	児童・思春期の精神障害				
13 回	発達障害 1				
14 回	発達障害 2				
15 回	精神保健				
教科書及び参考書		標準理学療法学作業療法学 精神医学、医学書院			
時間外学修及び留意事項		授業で配布した資料等を活用して毎回復習すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 小児科学	五十嵐勝朗	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	小児は成長・発達するということを踏まえて、疾病・障害を学ぶ。 成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら理解を深める。				
到達目標	1. 小児の発育・発達等が説明できる。 2. 小児の疾病や障害が説明できる。 3. 適切なリハビリテーションを行うため小児特有の問題点や解決方法が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	総論（Ⅰ）				
2 回	総論（Ⅱ）				
3 回	DNA				
4 回	脳				
5 回	反射（Ⅰ）				
6 回	反射（Ⅱ）				
7 回	反射（Ⅲ）				
8 回	呼吸、免疫				
9 回	消化と代謝、運動、神経				
10 回	内分泌、睡眠				
11 回	感覚、皮膚				
12 回	骨、歯、体温、発熱				
13 回	血液と血管、体液				
14 回	栄養、生理機能の正常値、尿意、検診、くせ、環境、事故				
15 回	発達の異常				
教科書及び参考書		診療に役立つ乳幼児の生理学、金原出版			
時間外学修及び留意事項		ノートを確認して復習すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 老年医学	佐藤秀則	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
	佐藤和輝			実務家教員	
授業概要	老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学ぶ。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害等の概要について学ぶ。				
到達目標	1. 加齢に伴う生理機能の変化、老化に伴う生活機能の変化が説明できる。 2. 老年期疾患に対するリハビリテーションが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	老年学とは				
2 回	加齢に伴う変化（生理・運動・精神）				
3 回	高齢者の定義および人口動態				
4 回	高齢者の機能評価				
5 回	老年症候群				
6 回	循環器・呼吸器・消化器疾患				
7 回	骨・神経・精神・内分泌代謝疾患				
8 回	予防医学（老年病と生活習慣病）				
9 回	フレイル・サルコペニア				
10 回	ロコモティブシンドローム				
11 回	骨粗鬆症と高齢者の骨折				
12 回	認知症				
13 回	廃用症候群				
14 回	高齢者の評価				
15 回	老年医学とリハビリテーション				
教科書及び参考書		老年医学テキスト、 メジカルビュー			
時間外学修及び留意事項		授業で配布した資料等を活用して毎回復習すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 一般臨床医学	松澤克典 神保康志 井上聡子 長岡明	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	医療従事者として共通の幅広い医学的知識を習得するため、外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患について病態、診断と治療を学ぶ。				
到達目標	1. 外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患について特徴的な症状、治療法が説明できる。 2. 外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患における基本的リハビリテーションが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	日本の疫学				
2 回	臓器と疾患―呼吸器				
3 回	臓器と疾患―消化器				
4 回	悪性腫瘍総論				
5 回	悪性腫瘍―各論 1				
6 回	悪性腫瘍―各論 2				
7 回	解剖				
8 回	病態生理（神経症候のみかた）①				
9 回	病態生理（神経症候のみかた）②				
10 回	画像・検査				
11 回	脳血管障害				
12 回	脳腫瘍、頭部外傷、感染症				
13 回	まとめ				
14 回	泌尿器科疾患概論				
15 回	産科疾患概論				
教科書及び参考書	はじめて学ぶ！脳神経外科のキホンとケア、総合医学社				
時間外学修及び留意事項	授業終了後には、授業で配られたプリントやノートを見ながら復習しておくこと。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 臨床薬学	佐藤和輝	理学療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	薬物の基本事項を理解した上で、理学療法の対象疾患に関連した薬物療法の考え方を学修する。				
到達目標	1. 薬物の基本事項について説明できる。 2. 薬物の副作用等について説明できる。 3. 対象疾患に対する薬物療法について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	薬物療法の基礎 1（薬物の作用機序）				
2 回	薬物療法の基礎 2（薬物の投与方法、体内動態）				
3 回	薬物療法の基礎 3（薬物の副作用、多剤服用症状）				
4 回	感染症・炎症に対する薬物療法				
5 回	呼吸・循環器系疾患に対する薬物療法				
6 回	精神・神経系疾患に対する薬物療法				
7 回	代謝性疾患に対する薬物療法				
8 回	理学療法と薬物療法				
教科書及び参考書		わかりやすい薬理学、ヌーヴェルヒロカワ			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（一般臨床医学や病態運動学）の内容を復習すること。			
成績評価方法		筆記試験により評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 救急救命学	石澤正夫	理学療法学科 3 年	講義・実技	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	緊急を要する病態や外傷に対する対応について学修する。				
到達目標	1. 救急医療体制について説明できる。 2. 応急手当や心肺蘇生が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	救急医療体制（救急医療機関・トリアージ・救急車の利用法）				
2 回	応急手当の基礎と実践 1（止血法・外傷の応急手当）				
3 回	応急手当の基礎と実践 2（特殊な疾病とその応急手当）				
4 回	応急手当の基礎と実践 3（搬送法）				
5 回	救命処置の基礎と実践 1（心肺蘇生）				
6 回	救命処置の基礎と実践 2（AED による除細動）				
7 回	救命処置の基礎と実践 3（気道異物除去）				
8 回	まとめ				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		実技では、実際の緊急事態を想定し、緊張感をもって取り組むこと。			
成績評価方法		上級救命講習修了証の取得をもって合格とする。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ リハビリテーション概論	船山貴子	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションの定義、目的、手段について学修する。				
到達目標	1. リハビリテーションの定義と目的が説明できる。 2. リハビリテーションの各段階が説明できる。 3. リハビリテーションの手段が説明できる。 4. リハビリテーションの適応が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	リハビリテーションの定義と目的				
2 回	リハビリテーションの諸段階（医学的リハビリテーション）				
3 回	リハビリテーションの諸段階（教育的リハビリテーション）				
4 回	リハビリテーションの諸段階（職業的リハビリテーション）				
5 回	リハビリテーションの手段（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）				
6 回	ノーマライゼーション・バリアフリー				
7 回	リハビリテーション対応となる主な疾病と外傷				
8 回	疾患別のリハビリテーション（運動器障害）				
9 回	疾患別のリハビリテーション（中枢神経障害）				
10 回	疾患別のリハビリテーション（内部障害）				
11 回	疾患別のリハビリテーション（呼吸・循環器障害）				
12 回	疾患別のリハビリテーション（高齢者）				
13 回	疾患別のリハビリテーション（小児）				
14 回	地域リハビリテーション				
15 回	リハビリテーションの将来性				
教科書及び参考書		PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション医学、羊土社			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ チーム医療論	佐藤和輝	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	患者を中心とした良質な医療を提供するために必要なチーム医療について、その必要性ならびに現状について学修する。また、リハビリテーションチームを構成する他職種について、業務ならびにチームでの役割について学修する。				
到達目標	1. チーム医療・多職種連携について説明できる。 2. リハビリテーションチームについて説明できる。 3. リハビリテーションチームにおける理学療法士の役割について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	チーム医療の意義と必要性について				
2 回	患者を中心としたチーム医療について				
3 回	リハビリテーション専門職にとってのチーム医療について				
4 回	リハビリテーションチームにおける理学療法士の専門性と役割について				
5 回	リハビリテーションチームにおける専門職について①				
6 回	リハビリテーションチームにおける専門職について②				
7 回	ケースカンファレンスについて				
8 回	チーム医療におけるコミュニケーション・スキル				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 地域包括マネジメント論	佐藤友美	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	2025 年度を目途に導入が推進されている地域包括ケアシステムの概要や、理学療法士が果たすべき役割を学修する。また、地域における理学療法士の活動の概要について学修する。				
到達目標	1. 地域包括ケアシステムの仕組みについて説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割や活動について説明できる。 3. 入所施設における理学療法の概要について説明できる。 4. 通所施設における理学療法の概要について説明できる。 5. 訪問における理学療法の概要について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	地域包括ケアシステム構築について				
2 回	地域包括ケアシステムにおける自治体の役割と活動について				
3 回	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について				
4 回	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の活動について（地域ケア会議、介護予防事業）				
5 回	介護保険制度について				
6 回	入所施設における理学療法について				
7 回	通所施設における理学療法について				
8 回	訪問における理学療法について				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		地域包括ケア実習における事前学習として重要であるため、講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 公衆衛生学	大谷勝実	理学療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、感染症対策について学ぶ。疾病予防、健康管理、環境保健などの諸問題から医療福祉制度について理解する。				
到達目標	1.人の健康を規定する要因としての社会・環境に関して説明できる。 2.人々の健康管理や疾病予防に役立てる基礎的な考え方とその取組について説明できる。 3.保健・医療・福祉制度や関連法規について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	公衆衛生序論				
2 回	保健統計				
3 回	疫学				
4 回	疾病予防と健康管理				
5 回	感染症対策				
6 回	環境保健保健医療福祉制度				
7 回	地域保健				
8 回	保健医療福祉制度				
教科書及び参考書		シンプル公衆衛生学、 南江堂			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 理学療法概論	杉原敏道 栗林明 (理学療法士)	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・60
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的な理学療法について教育を行う。 理学療法の定義、業務、過程、治療について学修する。				
到達目標	1. 理学療法の定義が説明できる。 2. 理学療法の業務内容が説明できる。 3. 理学療法の過程が説明できる。 4. 理学療法の治療手段が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション 理学療法の定義				
2 回	理学療法の業務①				
3 回	理学療法の業務②				
4 回	理学療法の業務③				
5 回	理学療法の業務④				
6 回	理学療法の過程①				
7 回	理学療法の過程②				
8 回	理学療法の過程③				
9 回	理学療法の過程④				
10 回	理学療法評価と ICF①				
11 回	理学療法評価と ICF②				
12 回	理学療法評価と ICF③				
13 回	理学療法評価と ICF④				
14 回	運動療法①				
15 回	運動療法②				
16 回	運動療法③				
17 回	運動療法④				
18 回	物理療法①				
19 回	物理療法②				
20 回	物理療法③				
21 回	物理療法④				
22 回	ADL①				
23 回	ADL②				
24 回	ADL③				
25 回	ADL④				
26 回	事例検討①				
27 回	事例検討②				
28 回	事例検討③				
29 回	事例検討④				
30 回	事例検討⑤				
教科書及び参考書	概説理学療法、 文光堂				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 病態運動学Ⅰ	田中基隆 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法の対象となる疾患の特徴について教育を行う。 疾病や外傷などにより発生する運動障害や動作障害について、その特徴や発生機序に関する基本的知識および運動学的分析方法について学修する。				
到達目標	1. 理学療法の対象となる疾患について臨床的特徴が説明できる。 2. 各疾患の病態から及ぼされる姿勢、運動、動作への影響の概略が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	炎症と疼痛①				
2 回	炎症と疼痛②				
3 回	炎症と疼痛③				
4 回	炎症と疼痛④				
5 回	骨折①				
6 回	骨折②				
7 回	骨折③				
8 回	骨折④				
9 回	骨折⑤				
10 回	変形性関節症①				
11 回	変形性関節症②				
12 回	変形性関節症③				
13 回	変形性関節症④				
14 回	変形性関節症⑤				
15 回	脊髄損傷①				
16 回	脊髄損傷②				
17 回	脊髄損傷③				
18 回	脊髄損傷④				
19 回	脊髄損傷⑤				
20 回	末梢神経障害①				
21 回	末梢神経障害②				
22 回	末梢神経障害③				
23 回	末梢神経障害④				
24 回	関節リウマチ①				
25 回	関節リウマチ②				
26 回	関節リウマチ③				
27 回	関節リウマチ④				
28 回	腰痛症①				
29 回	腰痛症②				
30 回	腰痛症③				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 Vol.4 呼吸器 Vol.7 脳・神経 Vol.8 腎・泌尿器、メディックメディア 標準整形外科学、医学書院 標準理学療法学作業療法学 内科学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（基礎解剖生理学や運動学等）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 病態運動学Ⅱ	田中基隆 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法の対象となる疾患の特徴について教育を行う。 疾病や外傷などにより発生する運動障害や動作障害について、その特徴や発生機序に関する基本的知識および運動学的分析方法について学修する。				
到達目標	1. 理学療法の対象となる疾患から生じる運動制限の臨床的特徴が説明できる。 2. 各疾患の病態から及ぼされる姿勢、運動、動作への影響の概略が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	靱帯損傷①				
2 回	靱帯損傷②				
3 回	靱帯損傷③				
4 回	不整脈と心電図①				
5 回	不整脈と心電図②				
6 回	不整脈と心電図③				
7 回	不整脈と心電図④				
8 回	虚血性心疾患①				
9 回	虚血性心疾患②				
10 回	虚血性心疾患③				
11 回	心不全①				
12 回	心不全②				
13 回	心不全③				
14 回	呼吸不全				
15 回	閉塞性換気障害①				
16 回	閉塞性換気障害②				
17 回	拘束性換気障害①				
18 回	拘束性換気障害②				
19 回	糖尿病①				
20 回	糖尿病②				
21 回	糖尿病③				
22 回	糖尿病④				
23 回	腎不全①				
24 回	腎不全②				
25 回	腎不全③				
26 回	悪性腫瘍①				
27 回	悪性腫瘍②				
28 回	悪性腫瘍③				
29 回	悪性腫瘍④				
30 回	悪性腫瘍⑤				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 Vol.4 呼吸器 Vol.7 脳・神経 Vol.8 腎・泌尿器、メディックメディア 標準整形外科学、医学書院 標準理学療法学作業療法学 内科学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（基礎解剖生理学や運動学）の内容を復習すること。 講義終了後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 理学療法研究法Ⅰ	田中基隆 佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科3年	演習・講義	単位・時間	1・30
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・教育・研究経験を生かして、理学療法領域における研究について教育する。 理学療法領域における研究の必要性や一連の過程について学修する。				
到達目標	1. 理学療法領域における研究の必要性、研究活動に必要な一連の過程が説明できる。 2. 文献検索ができる。 3. 仮説を証明するために必要な研究デザインを作ることができる。 4. 得られたデータを適切に処理し、解釈ならびに考察することができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1回	研究の意義・プロセスについて				
2回	テーマの見つけ方				
3回	デザインの決定について				
4回	データ解釈について				
5回	理学療法研究に必要な統計方法について①				
6回	理学療法研究に必要な統計方法について②				
7回	理学療法研究に必要な統計方法について③				
8回	理学療法研究に必要な統計方法について④				
9回	理学療法研究に必要な統計方法について⑤				
10回	論文作成の方法について				
11回～ 15回	研究計画書の作成				
教科書及び参考書		PT・OTのための統計学入門、三輪書店			
時間外学修及び留意事項		図書館等で文献検索を行うこと。			
成績評価方法		研究計画書の提出をもって評価する。 研究計画書作成に関わらなかった者がいる場合や、提出期限に遅れた場合は単位の修得を認めない。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 理学療法研究法Ⅱ	杉原敏道 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間	3・90
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・教育・研究経験を生かして、理学療法領域における研究について教育する。 実際の研究活動を通して理学療法領域における研究の必要性や一連の過程について学修する。				
到達目標	1. 理学療法領域における研究活動に必要な一連の過程を実施できる。 2. 仮説を証明するための文献検索ができる。 3. 得られたデータを適切に処理し、解釈ならびに考察することができる。 4. 論文を作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回～ 30 回	研究活動				
31 回～ 42 回	研究報告書作成				
43 回	発表①				
44 回	発表②				
45 回	発表③				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	理学療法研究法Ⅰの単位取得をもって開講する。 積極的に図書館等で文献検索を行い、科学的根拠を持って考察すること。 各個人が研究に対して責任と自覚を持ちながら行うこと。				
成績評価方法	研究報告書の提出（50％）ならびに発表（50％）をもって評価する。 研究報告書作成に関わらなかった者がいる場合や、提出期限に遅れた場合は、発表に参加出来ない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 理学療法総合演習Ⅰ	船山貴子 (理学療法士)	理学療法学科 4 年	演習	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かし理学療法の思考過程ならびに評価・治療技術に関して教育を行う。 事例検討を通して一連の理学療法プロセスを学修する。				
到達目標	1. 各症例に対し適切な評価を実施し、問題点が抽出できる。 2. 適切なゴール・プログラム立案ができる。 3. 症例報告書が作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	運動器疾患の事例検討（情報収集・仮説立案）				
2 回	運動器疾患の事例検討（評価）①				
3 回	運動器疾患の事例検討（評価）②				
4 回	運動器疾患の事例検討（統合解釈）①				
5 回	運動器疾患の事例検討（統合解釈）②				
6 回	運動器疾患の事例検討（ゴール・プログラム立案）				
7 回	運動器疾患の事例検討（プログラム実施）①				
8 回	運動器疾患の事例検討（プログラム実施）②				
9 回	運動器疾患の事例検討（レポート作成）①				
10 回	運動器疾患の事例検討（レポート作成）②				
11 回	中枢神経疾患の事例検討（情報収集・仮説立案）				
12 回	中枢神経疾患の事例検討（評価）①				
13 回	中枢神経疾患の事例検討（評価）②				
14 回	中枢神経疾患の事例検討（統合解釈）①				
15 回	中枢神経疾患の事例検討（統合解釈）②				
16 回	中枢神経疾患の事例検討（ゴール・プログラム立案）				
17 回	中枢神経疾患の事例検討（プログラム実施）①				
18 回	中枢神経疾患の事例検討（プログラム実施）②				
19 回	中枢神経疾患の事例検討（レポート作成）①				
20 回	中枢神経疾患の事例検討（レポート作成）②				
21 回	内部障害の事例検討（情報収集・仮説立案）				
22 回	内部障害の事例検討（評価）①				
23 回	内部障害の事例検討（評価）②				
24 回	内部障害の事例検討（統合解釈）①				
25 回	内部障害の事例検討（統合解釈）②				
26 回	内部障害の事例検討（ゴール・プログラム立案）				
27 回	内部障害の事例検討（プログラム実施）①				
28 回	内部障害の事例検討（プログラム実施）②				
29 回	内部障害の事例検討（レポート作成）①				
30 回	内部障害の事例検討（レポート作成）②				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	臨床を想定し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。				
成績評価方法	課題の提出および内容で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 理学療法総合演習Ⅱ	船山貴子 (理学療法士)	理学療法学科 4 年	演習	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、国家試験合格に向けて教育を行う。 基礎知識の確認と問題を解くための応用方法を学修する。				
到達目標	1. 国家試験合格に必要な基礎知識を理解する。 2. 基礎知識を基に臨床的思考を理解する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	神経解剖・生理学				
2 回	感覚器の構造・生理学				
3 回	循環器の解剖・生理学				
4 回	循環器疾患の病態と理学療法				
5 回	心電図の基礎				
6 回	各種不整脈の心電図				
7 回	呼吸器の解剖・生理学				
8 回	呼吸器疾患の病態と理学療法				
9 回	消化器の解剖・生理学				
10 回	消化器疾患の病態				
11 回	泌尿器・生殖器の解剖・生理学				
12 回	泌尿器疾患の病態				
13 回	画像所見の見方（骨関節）				
14 回	画像所見の見方（中枢神経・内臓）				
15 回	免疫の仕組み				
16 回	感染症				
17 回	がんの病態				
18 回	がんの理学療法				
19 回	臨床心理①				
20 回	臨床心理②				
21 回	精神医学①				
22 回	精神医学②				
23 回	義肢学①				
24 回	義肢学②				
25 回	装具学①				
26 回	装具学②				
27 回	人間発達				
28 回	小児疾患の病態と理学療法				
29 回	研究法				
30 回	関連法規				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義終了後に必ず復習すること。			
成績評価方法		国家試験模試の結果で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 理学療法管理教育学	佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について教育を行う。 また、免許取得後の生涯学習の必要性について学修する。				
到達目標	1.理学療法士の責任と義務について説明できる。 2.理学療法業務内容ならびに対価（診療報酬・介護報酬）について説明できる。 3.理学療法実施後の記録と管理について説明できる。 4.理学療法部門の施設基準ならびに機器管理について説明できる。 5.理学療法教育の内容ならびに生涯学習制度について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	理学療法士に関する法律				
2 回	社会保障制度①				
3 回	社会保障制度②				
4 回	理学療法業務の管理①				
5 回	理学療法業務の管理②				
6 回	リスクマネジメント				
7 回	理学療法教育の内容				
8 回	生涯学習制度				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 職業倫理学	佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、臨床現場で求められる倫理観について教育を行う。 医療・福祉等の臨床の現場で理学療法士に求められる高い倫理観について学修する。				
到達目標	1. コンプライアンス・法令違反について説明できる。 2. 守秘義務について説明できる。 3. 個人情報の取り扱いについて説明できる。 4. インフォームド・コンセントについて説明できる。 5. 理学療法士としての接遇について説明できる。 6. ハラスメントについて説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション（理学療法士に求められる倫理観）				
2 回	臨床現場におけるコンプライアンスと法令違反				
3 回	守秘義務				
4 回	個人情報と取り扱い				
5 回	インフォームド・コンセント				
6 回	臨床場面で必要な接遇				
7 回	各種ハラスメント				
8 回	事例検討				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 理学療法評価学	杉原敏道 栗林明 (理学療法士)	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法評価に関する教育を行う。 理学療法評価の一連のプロセスについて学修する。				
到達目標	1. 理学療法評価のプロセスが説明できる。 2. 各障害における検査の意義、目的、方法が説明できる。 3. 理学療法評価において、画像情報を適切に利用することができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	理学療法プロセスと理学療法診断				
2 回	背景因子の評価①				
3 回	背景因子の評価②				
4 回	機能形態障害の評価①				
5 回	機能形態障害の評価②				
6 回	機能形態障害の評価③				
7 回	機能形態障害の評価④				
8 回	機能形態障害の評価⑤				
9 回	活動障害の評価				
10 回	参加制限の評価				
11 回	統合解釈①				
12 回	統合解釈②				
13 回	事例検討①				
14 回	事例検討②				
15 回	事例検討③				
教科書及び参考書	標準理学療法 理学療法評価学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	既習の科目（基礎解剖生理学・理学療法概論）を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門分野> 理学療法評価学実習	田中基隆 佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	実技	単位・時間	3・90
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法評価の手技に関する教育を行う。 理学療法評価に必要な検査・測定に関わる技術について実技を通して学修する。				
到達目標	1. 対象者に対しての問診等の情報収集やオリエンテーションが適切に実施できる。 2. 理学療法評価に必要な検査・測定が適切に実施できる。 3. 臨床に即した理学療法評価の手順や方法を考え実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	情報収集と問診①		26 回	片麻痺機能検査・筋緊張検査①	
2 回	情報収集と問診②		27 回	片麻痺機能検査・筋緊張検査②	
3 回	視診・触診		28 回	片麻痺機能検査・筋緊張検査③	
4 回	バイタル測定①		29 回	協調性検査①	
5 回	バイタル測定②		30 回	協調性検査②	
6 回	形態測定①		31 回	協調性検査③	
7 回	形態測定②		32 回	バランステスト①	
8 回	関節可動域測定①		33 回	バランステスト②	
9 回	関節可動域測定②		34 回	バランステスト③	
10 回	関節可動域測定③		35 回	呼吸機能検査①	
11 回	関節可動域測定④		36 回	呼吸機能検査②	
12 回	関節可動域測定⑤		37 回	呼吸機能検査③	
13 回	関節可動域測定⑥		38 回	運動発達検査①	
14 回	筋力検査①		39 回	高次機能検査①	
15 回	筋力検査②		40 回	動作観察・動作分析①	
16 回	筋力検査③		41 回	動作観察・動作分析②	
17 回	筋力検査④		42 回	動作観察・動作分析③	
18 回	筋力検査⑤		43 回	統合解釈①	
19 回	筋力検査⑥		44 回	統合解釈②	
20 回	感覚検査①		45 回	統合解釈③	
21 回	感覚検査②				
22 回	感覚検査③				
23 回	反射・反応検査①				
24 回	反射・反応検査②				
25 回	反射・反応検査③				
教科書及び参考書	ベッドサイドの神経の診かた、 南山堂 新・徒手筋力検査法、 協同医書 PT・OT のための画像のみかた、 金原出版				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。 実技のできる服装を用意すること。 動作分析および統合解釈はレポート課題を提出すること。				
成績評価方法	実技試験（80％）およびレポート（20％）で評価する。 レポート未提出の場合は、実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 理学療法評価学演習Ⅰ	佐藤友美 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間 実務家教員	2・60 ○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法評価に関する教育を行う。 代表的な疾患の病態像や情報収集から評価を選択し、評価結果から問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案までの臨床思考過程を体系的に学修する。また、病態像に合わせた評価技術の応用や動作観察・分析の思考過程を学修する。				
到達目標	1. 代表的な疾患に対して、病態像を理解し説明できる。 2. 代表的な疾患に対して、病態像や情報収集の内容を踏まえた理学療法評価を選択できる。 3. 代表的な疾患に対して、病態像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。 4. 動作の観察から適切な分析ができる。 5. 評価結果から適切な統合・解釈ができる。 6. 代表的な疾患に対して、適切な問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案ができる。 7. 診療記録やレポートにより症例報告ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	大腿骨頸部骨折の情報収集		16 回	変形性関節症の検査・測定④	
2 回	大腿骨頸部骨折の仮説立案		17 回	変形性関節症の検査・測定⑤	
3 回	大腿骨頸部骨折の検査・測定①		18 回	変形性関節症の障害構造	
4 回	大腿骨頸部骨折の検査・測定②		19 回	変形性関節症の統合解釈	
5 回	大腿骨頸部骨折の検査・測定③		20 回	変形性関節症のゴール・プログラム立案	
6 回	大腿骨頸部骨折の検査・測定④		21 回	脳血管障害の情報収集	
7 回	大腿骨頸部骨折の検査・測定⑤		22 回	脳血管障害の仮説立案	
8 回	大腿骨頸部骨折の障害構造		23 回	脳血管障害の検査・測定①	
9 回	大腿骨頸部骨折の統合解釈		24 回	脳血管障害の検査・測定②	
10 回	大腿骨頸部骨折のゴール・プログラム立案		25 回	脳血管障害の検査・測定③	
11 回	変形性関節症の情報収集		26 回	脳血管障害の検査・測定④	
12 回	変形性関節症の仮説立案		27 回	脳血管障害の検査・測定⑤	
13 回	変形性関節症の検査・測定①		28 回	脳血管障害の障害構造	
14 回	変形性関節症の検査・測定②		29 回	脳血管障害の統合解釈	
15 回	変形性関節症の検査・測定③		30 回	脳血管障害のゴール・プログラム立案	
教科書及び参考書	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学、 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた、 南山堂 理学療法学テキスト、 メジカルビュー社				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（病態運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価技術論）の内容を復習すること。 実技を行うこともあるので実技のできる服装を用意すること。 理学療法評価実習の事前学習として重要であるため、講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 レポート提出が一つでも期限に遅れた場合や未提出の場合は実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 理学療法評価学演習Ⅱ	佐藤友美 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間 実務家教員	2・60 ○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして理学療法評価に関する教育を行う。 代表的な疾患の病態像や情報収集から評価を選択し、評価結果から問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案までの臨床思考過程を体系的に学修する。また、病態像に合わせた評価技術の応用や動作観察・分析の思考過程を学修する。 理学療法評価実習に必要な知識を学修する。				
到達目標	1. 代表的な疾患に対して、病態像を理解し説明できる。 2. 代表的な疾患に対して、病態像や情報収集の内容を踏まえた理学療法評価を選択できる。 3. 代表的な疾患に対して、病態像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。 4. 動作の観察から適切な分析ができる。 5. 評価結果から適切な統合・解釈ができる。 6. 代表的な疾患に対して、適切な問題点抽出・ゴール設定・プログラム立案ができる。 7. 診療記録やレポートにより症例報告ができる。 8. 総合臨床実習に向けた基本的な評価内容を理解し説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	パーキンソン病の情報収集		16 回	内部障害の検査・測定④	
2 回	パーキンソン病の仮説立案		17 回	内部障害の検査・測定⑤	
3 回	パーキンソン病の検査・測定①		18 回	内部障害の障害構造	
4 回	パーキンソン病の検査・測定②		19 回	内部障害の統合解釈	
5 回	パーキンソン病の検査・測定③		20 回	内部障害のゴール・プログラム立案	
6 回	パーキンソン病の検査・測定④		21 回	腰痛症の情報収集	
7 回	パーキンソン病の検査・測定⑤		22 回	腰痛症の仮説立案	
8 回	パーキンソン病の障害構造		23 回	腰痛症の検査・測定①	
9 回	パーキンソン病の統合解釈		24 回	腰痛症の検査・測定②	
10 回	パーキンソン病のゴール・プログラム立案		25 回	腰痛症の検査・測定③	
11 回	内部障害の情報収集		26 回	腰痛症の検査・測定④	
12 回	内部障害の仮説立案		27 回	腰痛症の検査・測定⑤	
13 回	内部障害の検査・測定①		28 回	腰痛症の障害構造	
14 回	内部障害の検査・測定②		29 回	腰痛症の統合解釈	
15 回	内部障害の検査・測定③		30 回	腰痛症のゴール・プログラム立案	
教科書及び参考書	標準理学療法学専門分野 理学療法評価学、 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた、 南山堂 理学療法学テキスト、 メジカルビュー社				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（病態運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価技術論）の内容を復習すること。 実技を行うこともあるので実技のできる服装を用意すること。 理学療法評価実習の事前学習として重要であるため、講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 レポート提出が一つでも期限に遅れた場合や未提出の場合は実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 理学療法治療学	田中基隆 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的治療手段に関する教育を行う。 理学療法の治療手段ならびに治療場面におけるリスク管理を学修する。				
到達目標	1. 各障害と治療手段の関係性について説明できる。 2. 治療におけるリスク管理について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	理学療法の分類				
2 回	身体運動の構成要素				
3 回	機能障害と運動療法①				
4 回	機能障害と運動療法②				
5 回	機能障害と物理療法①				
6 回	機能障害と物理療法②				
7 回	機能障害と義肢・装具療法				
8 回	活動制限と ADL 指導①				
9 回	活動制限と ADL 指導②				
10 回	運動療法とリスク管理				
11 回	ADL 指導とリスク管理				
12 回	早期離床とリスク管理				
13 回	痰吸引の実際				
14 回	痰吸引実技①				
15 回	痰吸引実技②				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 運動療法Ⅰ	長沼誠 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義・実技	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的治療のひとつである運動療法に関する教育を行う。 理学療法の最も大きな柱として位置づけられている、運動療法の位置づけと基本的概念を学修する。さらに、解剖学、生理学、運動学の知識をもとに、関節可動域運動、筋力増強運動等の運動療法の種類や目的、効果、禁忌、疾患への適応等を学修する。				
到達目標	1. 理学療法における運動療法の目的や種類が説明できる。 2. 運動が身体に与える影響が説明できる。 3. 運動障害の種類や原因について理解し、各運動療法の適応・禁忌（リスク）について説明できる。 4. 基本的な運動療法手技を実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	理学療法における運動療法の目的や種類		16 回	筋力増強運動④	
2 回	運動が全身におよぼす影響		17 回	持久力低下の原因と運動障害①	
3 回	運動制御と運動学習		18 回	持久力低下の原因と運動障害②	
4 回	運動処方		19 回	持久力運動①	
5 回	関節可動域制限の原因と運動障害①		20 回	持久力運動②	
6 回	関節可動域制限の原因と運動障害②		21 回	協調性障害の原因と運動障害①	
7 回	関節可動域運動①		22 回	協調性障害の原因と運動障害②	
8 回	関節可動域運動②		23 回	協調性運動①	
9 回	関節可動域運動③		24 回	協調性運動②	
10 回	関節可動域運動④		25 回	痛みの原因と種類について	
11 回	筋力低下の原因と運動障害①		26 回	痛みの種類と運動障害	
12 回	筋力低下の原因と運動障害②		27 回	痛みに対する運動療法①	
13 回	筋力増強運動①		28 回	痛みに対する運動療法②	
14 回	筋力増強運動②		29 回	痛みに対する運動療法③	
15 回	筋力増強運動③		30 回	痛みに対する運動療法④	
教科書及び参考書		標準理学療法学 運動療法学 総論、 医学書院			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（運動学等）の内容を復習すること。 実技のできる服装を用意すること。実技では安全に考慮し適切に行うこと。 講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験（50％）ならびに実技試験（50％）で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 運動療法Ⅱ	長沼誠 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	講義・実技	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的治療のひとつである運動療法に関する教育を行う。 理学療法の最も大きな柱として位置づけられている、運動療法の位置づけと基本的概念を学修する。さらに、解剖学、生理学、運動学の知識をもとに、関節可動域運動、筋力増強運動等の運動療法の種類や目的、効果、禁忌、疾患への適応等を学修する。				
到達目標	1. 運動障害の種類や原因について理解し、各運動療法の適応・禁忌（リスク）について説明できる。 2. 各障害に応じて運動療法手技を選択・実施できる。 3. 運動療法で行われる様々な手技の目的・適応・禁忌が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	中枢神経疾患による運動障害①	16 回	呼吸器障害による運動への影響①		
2 回	中枢神経疾患による運動障害②	17 回	呼吸器障害による運動への影響②		
3 回	中枢神経疾患に対する運動療法①	18 回	呼吸理学療法①		
4 回	中枢神経疾患に対する運動療法②	19 回	呼吸理学療法②		
5 回	中枢神経疾患に対する運動療法③	20 回	呼吸理学療法③		
6 回	中枢神経疾患に対する運動療法④	21 回	呼吸理学療法④		
7 回	中枢神経疾患に対する運動療法⑤	22 回	運動器障害による運動への影響①		
8 回	中枢神経疾患に対する運動療法⑥	23 回	運動器障害による運動への影響②		
9 回	脳性麻痺に対する運動療法①	24 回	運動器障害に対する運動療法①		
10 回	脳性麻痺に対する運動療法②	25 回	運動器障害に対する運動療法②		
11 回	循環器・代謝障害による運動への影響①	26 回	運動器障害に対する運動療法③		
12 回	循環器・代謝障害による運動への影響②	27 回	加齢による運動への影響①		
13 回	循環器・代謝障害に対する運動療法①	28 回	加齢による運動への影響②		
14 回	循環器・代謝障害に対する運動療法②	29 回	高齢者に対する運動処方①		
15 回	循環器・代謝障害に対する運動療法③	30 回	高齢者に対する運動処方②		
教科書及び参考書	標準理学療法学 運動療法学 総論、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（運動学等）の内容を復習すること。 実技のできる服装を用意すること。実技では安全に考慮し適切に行うこと。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験（50％）ならびに実技試験（50％）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 物理療法Ⅰ	船山貴子 佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的治療のひとつである物理療法に関する教育を行う。 物理療法の目的や生理学的作用、それぞれの実施方法ならびに適応や禁忌について学修する。				
到達目標	1. 各物理療法の目的や生理学的效果が説明できる。 2. 各物理療法の適応や禁忌が説明できる。 3. 各物理療法を安全に実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	物理療法総論				
2 回	温熱療法総論①				
3 回	温熱療法総論②				
4 回	ホットパック				
5 回	パラフィン浴				
6 回	電磁波の特性				
7 回	超短波療法				
8 回	極超短波療法				
9 回	超音波の特性				
10 回	超音波療法				
11 回	温熱療法実技①				
12 回	温熱療法実技②				
13 回	寒冷療法総論				
14 回	各種寒冷療法の特徴				
15 回	寒冷療法実技				
教科書及び参考書		物理療法学・実習、中山書店			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。実技では安全に考慮し適切に行うこと。			
成績評価方法		筆記試験（50％）ならびに実技試験（50％）で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 物理療法Ⅱ	佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士として実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的治療のひとつである物理療法に関する教育を行う。 物理療法の目的や生理学的作用、それぞれの実施方法ならびに適応や禁忌について学修する。				
到達目標	1. 各物理療法の目的や生理学的效果が説明できる。 2. 各物理療法の適応や禁忌が説明できる。 3. 各物理療法を安全に実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	牽引療法				
2 回	電気刺激療法総論①				
3 回	電気刺激療法総論②				
4 回	治療的電気刺激療法				
5 回	機能的電気刺激療法				
6 回	経皮的電気刺激療法・干渉波療法				
7 回	牽引療法・電気刺激療法実技①				
8 回	牽引療法・電気刺激療法実技②				
9 回	光線療法総論				
10 回	紫外線療法				
11 回	赤外線療法				
12 回	レーザー				
13 回	水治療法総論				
14 回	各種水治療法の特徴				
15 回	事例検討（物理療法の選択・実施）				
教科書及び参考書		物理療法学・実習、中山書店			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。実技では安全に考慮し適切に行うこと。			
成績評価方法		筆記試験（50％）ならびに実技試験（50％）で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 日常生活活動学	田中基隆 佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして対象者の日常生活活動の評価や指導に関する教育を行う。 日常生活活動（ADL）に関する評価や、指導方法、環境整備等について学修する。				
到達目標	1. 理学療法における ADL の位置付けが説明できる。 2. 理学療法対象者の ADL の評価ポイントが説明できる。 3. 理学療法対象者の ADL 指導のポイントが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	ADL 総論（範囲・定義）				
2 回	ADL 評価①				
3 回	ADL 評価②				
4 回	歩行補助具				
5 回	杖を使用した歩行動作①				
6 回	杖を使用した歩行動作②				
7 回	車椅子の構造・種類				
8 回	車椅子駆動および段差昇降①				
9 回	車椅子駆動および段差昇降②				
10 回	福祉用具・自助具				
11 回	住環境整備				
12 回	動作介助・指導（寝返り・起き上がり）①				
13 回	動作介助・指導（寝返り・起き上がり）②				
14 回	動作介助・指導（起立）①				
15 回	動作介助・指導（起立）②				
16 回	動作介助・指導（移乗）①				
17 回	動作介助・指導（移乗）②				
18 回	動作介助・指導（移乗）③				
19 回	動作介助・指導（歩行）①				
20 回	動作介助・指導（歩行）②				
21 回	脳血管障害の病態と ADL①				
22 回	脳血管障害の病態と ADL②				
23 回	人工関節置換術後の病態と ADL①				
24 回	人工関節置換術後の病態と ADL②				
25 回	関節リウマチの病態と ADL①				
26 回	関節リウマチの病態と ADL②				
27 回	頸髄損傷の病態と ADL①				
28 回	頸髄損傷の病態と ADL②				
29 回	胸髄損傷の病態と ADL①				
30 回	胸髄損傷の病態と ADL②				
教科書及び参考書	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（運動学・病態運動学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験（50％）ならびに実技試験（50％）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 日常生活活動学演習	杉原敏道 佐藤友美 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間	3・90
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして対象者の日常生活活動の評価や指導に関して事例を通して教育を行う。 各疾患に応じた ADL 動作の具体的な評価や指導方法について学修する。				
到達目標	1. 理学療法対象者の ADL の評価が実施できる。 2. 理学療法対象者の ADL 指導が実施できる。 3. 疾患・障害に合わせた介助方法や福祉用具の使用ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 評価) ①		25 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 評価) ⑤	
2 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 評価) ②		26 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 練習) ①	
3 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 評価) ③		27 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 練習) ②	
4 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 評価) ④		28 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 練習) ③	
5 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 評価) ⑤		29 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 練習) ④	
6 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 練習) ①		30 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 練習) ⑤	
7 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 練習) ②		31 回	事例検討 (腰痛症の ADL 評価) ①	
8 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 練習) ③		32 回	事例検討 (腰痛症の ADL 評価) ②	
9 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 練習) ④		33 回	事例検討 (腰痛症の ADL 評価) ③	
10 回	事例検討 (脳血管障害の ADL 練習) ⑤		34 回	事例検討 (腰痛症の ADL 評価) ④	
11 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 評価) ①		35 回	事例検討 (腰痛症の ADL 評価) ⑤	
12 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 評価) ②		36 回	事例検討 (腰痛症の ADL 練習) ①	
13 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 評価) ③		37 回	事例検討 (腰痛症の ADL 練習) ②	
14 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 評価) ④		38 回	事例検討 (腰痛症の ADL 練習) ③	
15 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 評価) ⑤		39 回	事例検討 (腰痛症の ADL 練習) ④	
16 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 練習) ①		40 回	事例検討 (腰痛症の ADL 練習) ⑤	
17 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 練習) ②		41 回	神経筋疾患の ADL 評価と指導①	
18 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 練習) ③		42 回	神経筋疾患の ADL 評価と指導②	
19 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 練習) ④		43 回	小児疾患の ADL 評価と指導①	
20 回	事例検討 (脊髄損傷の ADL 練習) ⑤		44 回	小児疾患の ADL 評価と指導②	
21 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 評価) ①		45 回	小児疾患の ADL 評価と指導③	
22 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 評価) ②				
23 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 評価) ③				
24 回	事例検討 (関節リウマチの ADL 評価) ④				
教科書及び参考書	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目 (ADL 総論、病態運動学等) の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	実技試験 (50%) およびレポート (50%) で評価する。 講義内で課されたレポートが未提出の場合は、実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 義肢装具学Ⅰ	杉原敏道 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的な装具から最新の装具における実用的な装具療法について教育を行う。 装具の原理、目的ならびにそれぞれの名称や構造について理解するとともに、症例を通してその適応について学修する。				
到達目標	1. 装具の原理や目的が説明できる。 2. 各種装具の名称や機能ならびに構造が説明できる。 3. 各種装具の適合判定、アライメント調整方法が説明できる。 4. 理学療法対象疾患における装具の適応が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	装具学総論				
2 回	装具の種類、法的制度				
3 回	下肢装具（長下肢装具）				
4 回	下肢装具（長下肢装具）				
5 回	下肢装具（プラスチック短下肢装具）①				
6 回	下肢装具（プラスチック短下肢装具）②				
7 回	下肢装具（金属支柱付き短下肢装具）①				
8 回	下肢装具（金属支柱付き短下肢装具）②				
9 回	特殊な下肢装具				
10 回	事例検討①				
11 回	事例検討①				
12 回	頸椎装具				
13 回	体幹装具（胸腰椎）				
14 回	体幹装具（腰仙椎）				
15 回	事例検討②				
16 回	事例検討②				
17 回	靴型装具①				
18 回	靴型装具②				
19 回	事例検討③				
20 回	事例検討③				
21 回	上肢装具（肩）				
22 回	上肢装具（肘）				
23 回	上肢装具（手）				
24 回	上肢装具（指）				
25 回	事例検討④				
26 回	事例検討④				
27 回	歩行補助具				
28 回	その他のリハビリテーション機器①				
29 回	その他のリハビリテーション機器②				
30 回	補装具の支給体系				
教科書及び参考書	義肢装具のチェックポイント、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 義肢装具学Ⅱ	杉原敏道 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして身体機能の回復や日常生活の向上を目的とした各種義肢について教育を行う。 義肢の原理、目的ならびにそれぞれの名称や構造について理解するとともに、症例を通してその適応について学修する。				
到達目標	1. 義肢の原理や目的が説明できる。 2. 各種義肢の名称や機能ならびに構造が説明できる。 3. 各種義肢の適合判定、アライメント調整方法が説明できる。 4. 理学療法対象疾患における義肢の適応が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	義肢総論				
2 回	下肢切断と理学療法				
3 回	義足（大腿）①				
4 回	義足（大腿）②				
5 回	義足（大腿）③				
6 回	義足（下腿）①				
7 回	義足（下腿）②				
8 回	義足（下腿）③				
9 回	義足（足部）①				
10 回	義足の異常歩行①				
11 回	義足の異常歩行②				
12 回	義足の異常歩行③				
13 回	切断の ADL 指導				
14 回	義手①				
15 回	義手②				
教科書及び参考書		義肢装具のチェックポイント、 医学書院			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 理学療法治療学演習Ⅰ	杉原敏道 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間 実務家教員	1・30 ○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして神経・筋疾患に対する理学療法について教育する。 理学療法の主要な疾患に対する治療ならびにリスク管理について学修する。				
到達目標	1. 各疾患の特性を捉え、治療効果の高い治療プランを立案できる。 2. リスク管理を行い、安全に治療が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	大腿骨頸部骨折の事例検討①				
2 回	大腿骨頸部骨折の事例検討②				
3 回	大腿骨頸部骨折の事例検討③				
4 回	大腿骨頸部骨折の事例検討④				
5 回	大腿骨頸部骨折の事例検討⑤				
6 回	変形性関節症の事例検討①				
7 回	変形性関節症の事例検討②				
8 回	変形性関節症の事例検討③				
9 回	変形性関節症の事例検討④				
10 回	変形性関節症の事例検討⑤				
11 回	脳血管障害の事例検討①				
12 回	脳血管障害の事例検討②				
13 回	脳血管障害の事例検討③				
14 回	脳血管障害の事例検討④				
15 回	脳血管障害の事例検討⑤				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（病態運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ）の内容を復習すること。 グループ討議などでは、積極性をもって参加すること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 講義内で課されたレポートが未提出の場合は、実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 理学療法治療学演習Ⅱ	佐藤友美 佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間	2・60
	実務家教員			○	
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして神経・筋疾患に対する理学療法について教育する。 神経・筋疾患に対する治療ならびにリスク管理について学修する。				
到達目標	1. 各疾患の特性を捉え、治療効果の高い治療プランを立案できる。 2. リスク管理を行い、安全に治療が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	パーキンソン病の事例検討①				
2 回	パーキンソン病の事例検討②				
3 回	パーキンソン病の事例検討③				
4 回	パーキンソン病の事例検討④				
5 回	パーキンソン病の事例検討⑤				
6 回	脊髄損傷の事例検討①				
7 回	脊髄損傷の事例検討②				
8 回	脊髄損傷の事例検討③				
9 回	脊髄損傷の事例検討④				
10 回	脊髄損傷の事例検討⑤				
11 回	失調症の事例検討①				
12 回	失調症の事例検討②				
13 回	失調症の事例検討③				
14 回	失調症の事例検討④				
15 回	失調症の事例検討⑤				
16 回	腰痛症の事例検討①				
17 回	腰痛症の事例検討②				
18 回	腰痛症の事例検討③				
19 回	腰痛症の事例検討④				
20 回	腰痛症の事例検討⑤				
21 回	神経難病の事例検討①				
22 回	神経難病の事例検討②				
23 回	神経難病の事例検討③				
24 回	神経難病の事例検討④				
25 回	神経難病の事例検討⑤				
26 回	脳性麻痺の事例検討①				
27 回	脳性麻痺の事例検討②				
28 回	脳性麻痺の事例検討③				
29 回	脳性麻痺の事例検討④				
30 回	脳性麻痺の事例検討⑤				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（病態運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ）の内容を復習すること。 グループ討議などでは、積極性をもって参加すること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 講義内で課されたレポートが未提出の場合は、実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 理学療法治療学演習Ⅲ	佐藤友美 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間 実務家教員	2・60 ○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして内部障害に対する理学療法について教育する。 内部障害ならびに外傷に対する治療ならびにリスク管理について学修する。				
到達目標	1. 各疾患の特性を捉え、治療効果の高い治療プランを立案できる。 2. リスク管理を行い、安全に治療が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	虚血性心疾患の事例検討①				
2 回	虚血性心疾患の事例検討②				
3 回	虚血性心疾患の事例検討③				
4 回	虚血性心疾患の事例検討④				
5 回	虚血性心疾患の事例検討⑤				
6 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討①				
7 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討②				
8 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討③				
9 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討④				
10 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討⑤				
11 回	糖尿病の事例検討①				
12 回	糖尿病の事例検討②				
13 回	糖尿病の事例検討③				
14 回	糖尿病の事例検討④				
15 回	糖尿病の事例検討⑤				
16 回	透析患者の事例検討①				
17 回	透析患者の事例検討②				
18 回	透析患者の事例検討③				
19 回	切断の事例検討①				
20 回	切断の事例検討②				
21 回	切断の事例検討③				
22 回	切断の事例検討④				
23 回	切断の事例検討⑤				
24 回	熱傷の事例検討①				
25 回	熱傷の事例検討②				
26 回	熱傷の事例検討③				
27 回	がんの理学療法①				
28 回	がんの理学療法②				
29 回	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法①				
30 回	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法②				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	既習の関連科目（病態運動学Ⅱ、理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ）の内容を復習すること。 グループ討議などでは、積極性をもって参加すること。				
成績評価方法	実技試験（50％）およびレポート（50％）で評価する。 講義内で課されたレポートが未提出の場合は、実技試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 地域理学療法学	佐藤友美 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして地域における理学療法の展開について教育を行う。 理学療法の対象となる疾患の地域における一連の理学療法について学修する。				
到達目標	1.地域理学療法の理念と背景について説明できる。 2.地域包括ケアシステムならびに介護保険制度の仕組みと理学療法の関連について説明できる。 3.地域における理学療法の展開について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	地域理学療法の理念と背景				
2 回	病院での理学療法と地域での理学療法の違いについて				
3 回	地域包括ケアシステム				
4 回	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の関わり				
5 回	介護保険制度				
6 回	介護保険制度と理学療法				
7 回	入所・通所サービスでの理学療法の展開				
8 回	訪問における理学療法の展開				
9 回	地域理学療法におけるリスクマネジメント				
10 回	災害時の理学療法				
11 回	健康維持・増進における理学療法				
12 回	介護予防における理学療法				
13 回	緩和ケア・終末期医療における理学療法				
14 回	スポーツ活動支援における理学療法				
15 回	生活環境の整備				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習した講義（地域包括ケアマネジメント論等）や、地域包括ケア実習の内容を確認すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 地域理学療法学演習	佐藤和輝 (理学療法士)	理学療法学科 3 年	演習	単位・時間 実務家教員	2・60 ○
授業概要	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして地域における理学療法の展開について症例を通して教育を行う。 事例検討を通して地域における適切な理学療法について学修する。				
到達目標	1. 対象者の保健・福祉領域における一連の理学療法行為が説明できる。 2. 対象疾患ごとに保健・福祉領域における適切な理学療法評価（診断）が説明できる。 3. 対象者の個別性に応じて、保健・福祉領域における適切な問題点の抽出・ゴール設定・理学療法プログラムの立案ができる。 4. 対象者の個別性に応じて、リスク管理に留意しながら治療が立案できる。 5. 症例報告書が作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容		授 業 内 容		
1 回	大腿骨頸部骨折の事例検討①	16 回	神経難病の事例検討④		
2 回	大腿骨頸部骨折の事例検討②	17 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討①		
3 回	大腿骨頸部骨折の事例検討③	18 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討②		
4 回	大腿骨頸部骨折の事例検討④	19 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討③		
5 回	変形性関節症の事例検討①	20 回	慢性閉塞性肺疾患の事例検討④		
6 回	変形性関節症の事例検討②	21 回	心不全の事例検討①		
7 回	変形性関節症の事例検討③	22 回	心不全の事例検討②		
8 回	変形性関節症の事例検討④	23 回	心不全の事例検討③		
9 回	脳血管障害の事例検討①	24 回	心不全の事例検討④		
10 回	脳血管障害の事例検討②	25 回	ターミナルケアの事例検討①		
11 回	脳血管障害の事例検討③	26 回	ターミナルケアの事例検討②		
12 回	脳血管障害の事例検討④	27 回	介護予防の事例検討①		
13 回	神経難病の事例検討①	28 回	介護予防の事例検討②		
14 回	神経難病の事例検討②	29 回	健康増進の事例検討①		
15 回	神経難病の事例検討③	30 回	健康増進の事例検討②		
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習した講義（地域理学療法Ⅰ等）の内容を確認すること。 講義後に必ず復習をすること。 実技のできる服装を用意すること。				
成績評価方法	レポートで評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 理学療法見学実習	栗林明 (理学療法士)	理学療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する理学療法士の指導の下、見学を通して理学療法に関する実践的教育を行う。 病院およびクリニックにおいて、理学療法士の指導・監督の下で業務の見学を行う。				
到達目標	1. 理学療法業務の見聞と理解を通して理学療法対象者のイメージをつくる。 2. 理学療法士になるためにはどのような学修が必要か理解を深める。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	詳細は実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		概説理学療法、 文光堂			
時間外学修及び留意事項		実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。 課題が未提出の者はセミナーへの出席は認めない。			
成績評価方法		実習状況、セミナー、提出課題で総合的に評価し単位を認定する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 地域理学療法実習	田中基隆 (理学療法士)	理学療法学科 2 年	実習	単位・時間	3・135
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する理学療法士の指導の下、見学・体験を通して理学療法に関する実践的教育を行う。 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解する。また、地域包括ケアシステムに関与する関連職種の役割を理解する。				
到達目標	1.通所リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学する。 2.通所リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 3.訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学する。 4.訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 5.ケアプランの立案過程を見学する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	詳細は実施要綱に従う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。 課題が未提出の者はセミナーへの出席は認めない。				
成績評価方法	実習状況（50%）、セミナー（30%）、提出課題（20%）で総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 理学療法評価実習	理学療法学科 全教員	理学療法学科 3 年	実習	単位・時間	7・315
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する理学療法士の指導の下、理学療法評価の一連の過程に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、理学療法士の指導・監督のもと理学療法評価の一連のプロセス（情報収集・問題の特定・目標設定・治療プログラムの立案）を実践し、理学療法プログラムの立案を行う。				
到達目標	1. 症例に対して適切な情報収集ができる。 2. 症例に対して適切な評価ができる。 3. 症例に対して適切な障害構造が把握できる。 4. 症例に対して適切な問題点が抽出できる。 5. 症例に対して適切なゴールが設定できる。 6. 症例に対して適切なプログラムが設定できる。 7. 症例に対して実施した内容を記録・報告できる。 8. 医療従事者として適切な行動ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	詳細は実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		なし			
時間外学修及び留意事項		事前学修として理学療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。また、評価の実技練習も繰り返し行うこと。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。			
成績評価方法		プレテスト（筆記・実技）（20%）、臨床実習（40%）、実習後セミナー（40%）を総合的に評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 総合臨床実習Ⅰ	理学療法学科 全教員	理学療法学科 4 年	実習	単位・時間	8・360
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する理学療法士の指導の下、一連の理学療法に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、理学療法士の指導・監督のもと理学療法評価ならびに治療を実践する。				
到達目標	1. 各疾患・理学療法対象者に応じて適切な理学療法評価が実施できる。 2. 各疾患・理学療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、理学療法アプローチが設定できる。 3. 各疾患・理学療法対象者に応じてリスクを考慮し理学療法アプローチが実施できる。 4. 理学療法対象者の変化に応じて、再評価が実施でき、ゴール、理学療法アプローチが変更できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	詳細は実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		なし			
時間外学修及び留意事項		事前学修として理学療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。また、理学療法評価実習における反省点の改善に努め、評価・治療の実技練習も繰り返し行うこと。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。			
成績評価方法		ブレテスト（筆記・実技）（20%）、臨床実習（40%）、実習後セミナー（40%）を総合的に評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 総合臨床実習Ⅱ	理学療法学科 全教員	理学療法学科 4 年	実習	単位・時間	8・360
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する理学療法士の指導の下、一連の理学療法に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、理学療法士の指導・監督のもと理学療法評価ならびに治療を実践する。				
到達目標	1. 各疾患・理学療法対象者に応じて適切な理学療法評価が実施できる。 2. 各疾患・理学療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、理学療法アプローチが設定できる。 3. 各疾患・理学療法対象者に応じてリスクを考慮し理学療法アプローチが実施できる。 4. 理学療法対象者の変化に応じて、再評価が実施でき、ゴール、理学療法アプローチが変更できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	詳細は実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		なし			
時間外学修及び留意事項		事前学修として理学療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。また、総合臨床実習Ⅰにおける反省点の改善に努め、評価・治療の実技練習も繰り返し行うこと。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。			
成績評価方法		ブレテスト（筆記・実技）（20%）、臨床実習（40%）、実習後セミナー（40%）を総合的に評価する。			

実務家教員による講義

科目名	単位数	時間数	担当教員
理学療法概論	2	60	杉原敏道、栗林明
病態運動学Ⅰ	2	60	田中基隆
病態運動学Ⅱ	2	60	田中基隆
理学療法研究法Ⅰ	1	30	田中基隆、佐藤和輝
理学療法研究法Ⅱ	3	90	杉原敏道
理学療法総合演習Ⅰ	2	60	船山貴子
理学療法総合演習Ⅱ	2	60	船山貴子
理学療法管理教育学	1	15	佐藤和輝
職業倫理学	1	15	佐藤和輝
理学療法評価学	1	30	杉原敏道、栗林明
理学療法評価学実習	3	90	田中基隆、佐藤和輝
理学療法評価学演習Ⅰ	2	60	佐藤友美
理学療法評価学演習Ⅱ	2	60	佐藤友美
理学療法治療学	1	30	田中基隆
運動療法Ⅰ	2	60	長沼誠
運動療法Ⅱ	2	60	長沼誠
物理療法Ⅰ	1	30	船山貴子、佐藤和輝
物理療法Ⅱ	1	30	佐藤和輝
日常生活活動学	2	60	田中基隆、佐藤和輝
日常生活活動学演習	3	90	杉原敏道、佐藤友美
義肢装具学Ⅰ	2	60	杉原敏道
義肢装具学Ⅱ	1	30	杉原敏道
理学療法治療学演習Ⅰ	1	30	杉原敏道
理学療法治療学演習Ⅱ	2	60	佐藤友美、佐藤和輝
理学療法治療学演習Ⅲ	2	60	佐藤友美
地域理学療法学	1	30	佐藤友美
地域理学療法学演習	2	60	佐藤和輝
理学療法見学実習	1	45	栗林明
地域理学療法実習	3	135	田中基隆
理学療法評価実習	7	315	理学療法学科全教員
総合臨床実習Ⅰ	8	360	理学療法学科全教員
総合臨床実習Ⅱ	8	360	理学療法学科全教員
合計	74	2595	